

学校名：佐賀市立川副中学校

校長名：陣内 弘文

所在地：佐賀県佐賀市川副町大字鹿江710番地

電話番号：0952-45-1251

I 実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は、佐賀県の南部に位置し、豊かな有明海の恩恵を受けた「のり養殖」、肥沃な干拓地を利用した「農業」が盛んな地域である。空の玄関口である「有明佐賀空港」を核とした道路整備とともに更なる発展が期待されている。平成19年10月1日の市町村合併により佐賀市立の学校となり、平成20年50周年を迎えた。川副町は芸術文化とスポーツの町として、また歴史的にも佐野常民生誕の地として知名度が高くこれらの伝統を受け継ぎながら、学校教育目標である「主体的に学力を身に付け、豊かな心と知性を備えた生徒の育成」のもと日々、授業や部活動、諸活動に意欲的に取り組んでいる。

2 学校の概要 (平成22年5月1日現在)

	1年	2年	3年	特別支援学級	計	
学級数	4	4	4	1	13	
生徒数	男	67	69	86	2	224
	女	58	58	60	1	177
	計	125	127	146	3	401

教員数 29名 (保健体育科 3名)

武道・ダンスの授業の状況

領域：武道

領域の内容：剣道(男子)・なぎなた(女子)

	1年	2年	3年	特別支援	計	
配当時間数	15	15	15	0	45	
担当教員数	3	3	2	0	8	
(外部指導者)	2	2	0	0	4	
生徒数	男	68	69	87	0	224
	女	58	58	0	0	116
	計	126	127	87	0	340

領域：ダンス 領域の内容：現代的リズムダンス

	1年	2年	3年	特別支援	計	
配当時間数	0	0	15	0	15	
担当教員数	0	0	1	0	1	
(外部指導者)						
生徒数	男	0	0	0	0	0
	女	0	0	61	0	61
	計	0	0	61	0	61

II 授業事例及び今後の展望等

【本事業の成果の要点】

外部指導者との連携においては、基本動作や基本となる技の示範を担当していただき、技能の習得やつまずきの解決を効果的に行うことができた。

剣道の授業では、外部指導者を含め3名の指導体制で行うことができ、きめ細やかな指導や習熟度別指導が行え、生徒の技能向上につながった。

なぎなたの授業では、基本姿勢(半身)を保つことが難しいので、密に外部指導者と連携しながら、体さばきの練習や基本となる技の習得に向け、授業を展開することができた。打突のおもしろさを生徒自身が感じ、大きな発声で基本となる技を身に付けることができた。

剣道・なぎなたの授業では「痛そう」「けがしそう」「声が出せるか」等の不安な点があったが、授業後は「楽しかった」「技ができるようになった」「またやってみたい」と感じた生徒が多くいた。

1 研究テーマ等

(1) 研究テーマ

生徒が意欲的に取り組む武道(剣道・なぎなた)授業の充実

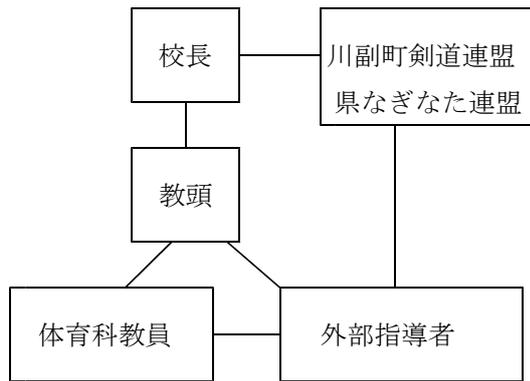
～外部指導者と体育担当教員との連携の在り方～

(2) 研究テーマ設定のねらい

改訂された学習指導要領では、中学校第1・2学年で武道領域が必修となり、我が国特有の伝統と文化により一層触れるように示されている。

本校では、分かる授業・楽しい授業の中で、基礎的・基本的な学習内容を身に付けるためティームティーチングでの指導を取り入れている。さらに、武道領域で生徒が身に付けるべき学習内容を明確にし、外部指導者と連携することで生徒が自ら課題を見付け、積極的に活動できる指導の創意・工夫を研究のねらいとした。

(3) 取組体制



(4) 本事業における主な取組

平成22年度	4月	年間計画の見直し
	10月	学校体育なぎなた指導者養成講習会受講（牛津高等学校）
	11月	単元計画の作成
		外部指導者との打ち合わせ
		武道講演会（剣道・なぎなた）
		剣道・なぎなた授業実践
	12月	公開授業
	1月	先進校視察（松山）

2 授業事例

(1) 剣道

① 目的

剣道への興味・関心を深めさせる手立てをとり、地域の剣道専門家との連携を図り、技術指導の支援及び生徒の技能習得の補助を行う。

② 具体的な指導方法

授業では、礼儀作法と竹刀の扱い方など所作法に重点をおいて展開した。

外部指導者の先生方には、より専門的な立場から生徒への指導や助言をいただき

た。技術指導の中で、基本となる技やしかけ技など、技の習得の際には必ず模範を示してもらうようにした。きめ細かな指導や助言をしてもらうことで生徒の意欲も高まり剣道に対する理解も深まった。

外部指導者との連携の充実を図るために、改訂された学習指導要領や生徒の実態を受け、単元計画と学習内容に剣道の専門家としてのアドバイスを取り入れた。

授業前、終了後に毎時間の指導内容の確認と反省を行った。指導者には、相手とうまく打突を行わせるために、受け方に重点をおき、専門的立場から体さばきの習得に指導を特にお願した。

また、外部指導者を含めた3名の指導体制で行うことにより、きめ細やかな指導や習熟度別指導が行え、技能向上にもつながった。

また、授業の中で学び合い学習の場の設定を多く取り入れることで、生徒自身が課題を見付け、課題解決のためにグループの中で、お互いに出来映えを確認しながら学習を進めることができるように心がけた。

③ 成果・課題

地域指導者との連携においては、基本動作や基本となる技の模範を担当していただき、技能の習熟やつまずき解決を効果的に行うことができた。地域指導者と毎時間の指導内容の確認と反省を行うことで、生徒の実態に応じた授業を展開することができた。また、剣道の授業では、防具の装着がかなり早くなり、授業内容の充実につながった。指導者3名の指導体制で行うことができ、きめ細やかな指導や習熟度別指導が行え、技能向上につながった。



授業における地域剣道指導者

(2) なぎなた

① 目的

なぎなたへの興味関心を深めさせる手立てをとり、地域のなぎなた専門家との連携を図り、なぎなたの扱い方や基本となる技の習得への支援を行う。

② 具体的な指導方法

今年度より、女子の武道の授業に新たになぎなたを取り入れた。なぎなたについては、県内でも初めての取組であり、体育教員自身も経験がないため、地域指導者や高等学校の指導者との連携を密に行い、授業を行った。

初めて手にするなぎなたの扱い方や基本の構え（半身）について重点をおいて指導を行った。基本動作や基本となる技の打ち返しやしかけ・応じの習得とリズムなぎなたに触れさせる計画を立てた。

なぎなたの指導については、なぎなたの特性上、体さばきを身に付けさせることが必要であるので繰り返しの学習を行った。相手の動きを見て動作を行ったり、間合いを大切にさせることで相手の動きの読みを養い身体を移動回転させながら、繰り出しや繰りこみ、持ちかえなどのなぎなた操作で相手の部位を打突できるように練習を工夫した。また、教え合いの場面を多く設定することで、自らの課題を見付け、解決しようとする態度の育成にも力を入れるように授業の展開を工夫した。リズムなぎなたの楽しさにも触れさせたいと考え、生徒の好む現代的な曲

を選定した。

③ 成果・課題

なぎなたの授業では、基本姿勢（半身）を保つことが難しいので、常に外部指導者と声かけを行いながら、体さばきの練習や基本となる技の習得に向け、復習しながら進めていく方法で授業を展開することができた。打ち返しやしかけ・応じの段階では、打突のおもしろさを生徒自身が感じ、大きな発声で活動できるようになってきた。

自由練習では、互いに教え合いながら進めていた。毎時間の学習ノートの記録を見ても、授業の満足度について 80 %を超える生徒が増えていった。外部指導者からのポイント説明についてもきちんと理解でき、自分の課題を見付けることができるようになった。

リズムなぎなたでは、習得した技をグループで工夫しながら、作品づくりに取り組み、楽しそうに演技を行えた。履修した内容をさらに発展させるためにもリズムなぎなたの導入はとても効果があったと感じた。



なぎなたのしかけ応じの練習の様子

(3) 武道講演会

① 目的

剣道・なぎなたの授業に取り組むための導入として、講師を招へいし、興味関心を深めさせるとともに特性を理解させる。

② 具体的な指導方法

2学年次の生徒を対象に武道講演会を11月に行った。本校の校長、教頭による剣道形の模範演技やかかり稽古を披露してもらった。身近に指導を受けている先生方で

あり、気迫のこもった演技に生徒は感動していた。また、なぎなたについて、佐賀東高等学校の教諭と県のなぎなた連盟より推薦していただいた外部指導をお呼びし、なぎなた部の生徒も参加してもらった。なぎなたの歴史や特性について分かりやすく話をしていただいた。基本となる技の模範演技やリズムなぎなたの実演に生徒は、興味・関心を高めていた。講演会で専門的な技術指導をしてもらうことによって、生徒の関心・意欲が高まり、講演会后、早く「やってみみたい」という生徒が増えた。



武道講演会での剣道形



武道講演会でのなぎなた模範演技

③ 成果・課題

事前アンケートでは、剣道を初めて行う生徒にとって剣道は「痛そう」「けがしそう」「声が出せるか」等の不安な点があげられた。期待することとしては、「礼法を学びたい」「技能を向上させたい」「喜びや楽しさを味わいたい」と考える意見が上位をしめた。

なぎなたでは初めて出会う単元のため「痛そう」「声を出せるか」のイメージを持った生徒が多かった。しかし、「楽しそう」「やってみたい」「礼儀を学びたい」と考えている生徒が半

数以上であった。武道講演会を開いたことで間近で特性に触れ、より取り組みやすく感じたようであった。

3 今後の展望

剣道・なぎなたの授業に対し、「痛そう」「けがしそう」「声が出せるか」等の不安な点があったが、実際に防具を着け、やってみると「楽しかった」「技ができるようになった」と感じた生徒が多くなった。なぎなたに初めて出会った生徒も「楽しかった」「またやってみみたい」という意見が多かった。

今後、外部指導者と連携し、剣道・なぎなたの特性について、理解を深めて授業づくりの工夫をすれば、さらに主体的に学ぶ姿勢が身に付くと思われる。

佐賀県教育委員会及び佐賀市教育委員会の協力を得て、12月14日に研究授業及び研究協議会を開催し、指導方法や内容について多くの意見をいただいた。取組1年目で初めて取り組む単元（なぎなた）でもあり、試行錯誤で進めていったが、生徒の感想を見ると非常に効果的な取り組みであったと言える。

今後は外部指導者とのより綿密な関係を築きさらに学習内容を定着させていきたい。今年度の研究の成果及び課題をもとに授業実践を積み効果的な指導方法について、さらに研究を深めていきたい。

7 単元計画(2年)

単元計画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
	武道講演会	○オリエンテーション ・歴史や特性について ・礼法なぎなたの扱い	共通メニュー(準備運動 ストレッチ 今日の学習の確認)					○基本となる技 ・打ち返し ・抜き技 ・腰の柄受けからの抜き技 ・仕かけ応じ1本目					○抜き技 ・抜き技 ・側面の柄受けからの抜き技 ・仕かけ応じ2本目				
			・八相からの側面打ち ・八相からの腰打ち				打ち返しの評価			仕かけ応じの評価							

8 指導と評価の計画 (2年)

時	指導内容と学習活動	学習活動における具体的評価基準など			
		(ア)運動への関心意欲態度	(イ)運動についての思考・判断	(ウ)運動の技能	(エ)運動についての知識・理解
1	学習の進め方やねらいを知る。 1 武道講演会 ・講師を招聘し、剣道・なぎなたの歴史や特性について模範演技をみて、イメージ把握				①なぎなたの特性や成り立ちを言ったり書き出している。【学習ノート】
2	○運動の特性や学習のねらい、計画、内容を理解する。 ○なぎなたの学習準備をする。 1 オリエンテーション ・特性、ねらい、計画 ・礼法・なぎなたの取り扱いについて知る。	①相手を尊重する気持ちを込めて礼をしようとしている。 【観察】			④なぎなたの名称についてと打突部位について言ったり書き出している。 【学習ノート】
3 4 5 6	相手の動きに応じた基本動作を身につけ、基本打突の打ち方・受け方の練習を楽しむ。 1 基本動作 ・①自然体 ・②構え:中段、下段、八相、脇 なぎなたの持ち方、足の位置 ・②体さばき ・歩み足、送り足 ・③打突 ・上下振り ・正面・側面打ちと受け方(刃部、柄部) 2 打ち返し	⑤用具や練習場所などの安全に留意しようとしている。 【観察】 ②互いに練習相手をしたり、助言したりしようとしている。 【観察】	①技を身につけるための運動の行い方やポイントを見付けている。 【観察】 【学習ノート】	①基本姿勢(半身)になることができる。 ②相手の動きに応じて自然体から中段に構えることができる。 ③相手の動きに応じて歩み足や送り足をすることができる。 ④八相の構えから側面、腰を正確に打つことができる。 【観察】	③それぞれの技を身につけるための技術的なポイントがあることを言ったり、書き出している。 【学習ノート】
7 8 9 10 11 12	相手の動きに応じた基本となる技を身につけ、気剣体一致の技で相手との約束の部位を正しく打突することを楽しむ。 1 対人的技能(相対で基本となる技) ・①仕かけ技(1本目) ・面 一すね ・②応じ技(一本目) ・〈抜き技〉腰抜き面 ・〈受け技〉すね受け側面 ・③仕かけ技(2本目) ・すね 一側面 ・④応じ技(2本目) ・〈抜き技〉側面抜きすね ・〈受け技〉側面受けすね 2 約束練習と自由練習 3 仕かけ応じの評価 方法:2人一組で2回ずつ試技動きのできばえを判定	③仲間の学習を援助しようとしている。 【観察】 ④危険な動作をしたり、禁じ技を用いたりしないで、練習をしようとしている。 【観察】 ⑥練習を円滑に進めるために、自分のやくわりを果たそうとしている。 【観察】	②自己の課題に応じた練習方法を見付けている。 【観察】 【学習ノート】 ③相対での練習を行う上で、安全に留意した適切な行動を選んでいる。 【観察】 【学習ノート】	⑤中段の構えから体さばきを使って、面や側面、すねの部位を打ったり、受けたたりすることができる。 ⑥仕かけ応じ1本目で、仕かけ技を正確に行ったり、応じ技を正確に行うことができる。 【観察】	②技を身に付けたり、身に付けた技を用いて相手と攻防する楽しさや喜びを味わうことのできる運動であること言ったり書き出している。 【観察】 【学習ノート】
13 14 15	基本となる技を用いて、簡単なリズムなぎなたを楽しむ。 1 グループでリズムなぎなた ・音楽を与えてグループで創作 2 学習のまとめ	⑦グループの仲間と協力して、リズムなぎなたを完成させようとしている。 【観察】	④提供された資料や仲間の助言から課題を見つけて練習方法を工夫している。 【観察】 【学習ノート】	⑦仕かけ応じ2本目で、仕かけ技を正確に行ったり、応じ技を正確に行うことができる。 ⑧基本となる技を用い、音楽のテンポに合わせて動きを作ることができる。 【観察】	⑤リズムなぎなたの隊形や動きを言ったり書き出している。 【観察】 【学習ノート】